

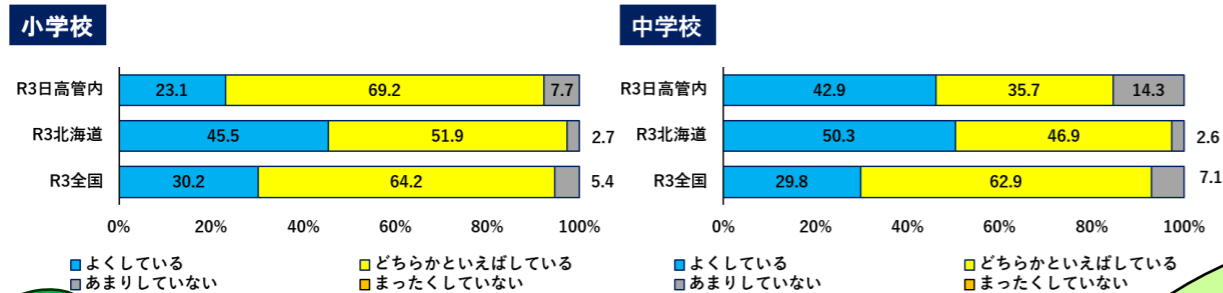
【ひだかプラン】「令和4年度日高管内教育推進の重点」の具現化

国語科の特質を踏まえた授業改善

日高教育局では、令和3年度全国学力・学習状況調査の結果及び各学校の国語科の特質を踏まえた授業改善の参考にしていただくため、本資料を作成しました。本資料は、「検証改善サイクルの確立」「授業改善」「望ましい学習習慣の確立」「小学校と中学校が連携した取組の充実」の4つの視点で分析された「令和3年度全国学力・学習状況調査 北海道版結果報告書」に基づき、日高管内の状況を踏まえ、各学校で取り組む内容を整理したものです。各学校の校内研修等において、本資料を活用し、授業改善の充実に努めてください。

校長のリーダーシップ、ミドルリーダーを中心とした組織的な取組

児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している



改善 次のことに取り組みましょう

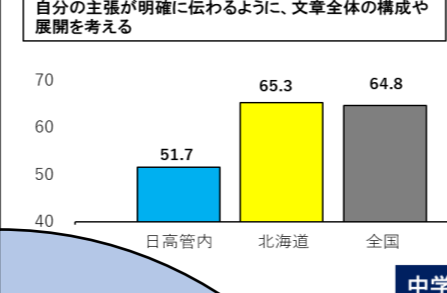
- 全教職員で全国学力・学習状況調査の結果分析及び改善策の検討を行う。
- 公開授業で明らかになった課題を、次の公開授業で検証するなど、短いスパンで検証改善サイクルを機能させた教育活動の質の向上を図る。

日高管内では、学力向上に向けた検証改善サイクルの確立に課題があります。校長のリーダーシップの下、学校運営の状況や課題を全教職員で共有し、各種データ等を効果的に活用するなど、検証改善サイクルを確立・機能させ、教育活動の質を高めることが大切です。

検証改善サイクルの確立

国語科における言語活動の充実

自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える



日高管内の小学校では、自分の考えをもち、言葉や文章で表すことに課題があります。

日高管内の中学校では、文章を読んで理解したこと等を知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることに課題があります。

改善1 次のことに取り組みましょう

- 児童が、書くための材料を整理したり関係付けたりして、段落に書く内容を考えながら、文章全体の構成や展開を検討できるよう指導することが大切です。(学習活動の例)
自分の主張が効果的に伝わるかを確認できるように、児童が、主張と理由や事例をカードに分けて書いたり、それらを並べ替えたりする活動等

改善2

- 生徒が、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことを他者に説明したり、他者の考えを知ったりすることで、生徒が、自分の文章を振り返り、自分の考えを確かなものにするよう指導することが大切です。(学習活動の例)
生徒が、新聞記事の見出しなどに書かれている情報を正しく捉えることができるよう、リード文を削除した新聞記事の見出しや本文を基に、リード文を書き、実際のリード文と自分が書いたものを読み比べる活動等

授業改善

4つの視点

望ましい学習習慣、生活習慣の確立に向けた

学校と家庭・地域との連携

学校の授業以外の1日当たり2時間以上勉強している

	小学校	中学校
R3日高管内	10.0%	18.3%
R3北海道	18.4%	37.9%
R3全国	26.9%	41.8%

日高管内では、児童生徒の学習習慣の確立に課題があります。子どもが、自ら計画を立てて学習し、規則正しい生活を送ることのできる環境づくりに向け、家庭や地域との協力体制の確立が大切です。

改善 次のことに取り組みましょう

- 「家庭学習の手引き」などを活用し、学ぶ意義や目的を、児童生徒に例を示して説明する。
- 発達の段階に応じて、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図る宿題の取組に加えて、自分の学習状況を把握し、計画的に学習する自主学習の取組を取り入れ、系統的に質や量の充実を図る。
・宿題の例…漢字やひらがなの書き取り、音読等
・自主学習の例…知りたいことや関心のある話題のスピーチメモを作成し、テレビやラジオ、インターネットなどの音声や動画を参考に、スピーチの動画を撮り発表し合う取組等

【参考】令和3年度全国学力・学習状況調査北海道版結果報告書 P26~28

小学校と

中学校が

連携した

取組の充実

日高管内では、小・中学校が連携した授業研究の取組に課題があります。小学校と中学校の連携に向けた全教職員の意識を高め、日常的な協働体制を構築することが大切です。

【参考】令和3年度全国学力・学習状況調査北海道版結果報告書 P23~25

子ども像の共有、系統性を踏まえた指導の組織的な

展開

近隣等の小・中学校と、授業研究を行うなど、合同研修を行った

	小学校	中学校
R3日高管内	50.0%	28.5%
R3北海道	56.2%	67.7%
R3全国	57.4%	65.1%

改善 次のことに取り組みましょう

- 小・中学校合同研修等において、全国学力・学習状況調査の結果から、児童生徒の学力や学習状況を把握、分析し、例えば、「要約すること」など、小・中学校のつながりのある学習内容について、授業研究を行う。
- 授業参観や協議を通じて、学習内容の系統性や児童生徒の発達の段階に応じた指導方法等についての理解を深め、授業改善を図る。